川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方

平成２３年２月
川　崎　市

川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方　目次

第１章　策定にあたって　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

１　はじめに　・・・1

２　川崎駅周辺のまちづくりの背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

（１）川崎駅周辺の広域的なまちづくりの進展　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

（２）新たな川崎のイメージアップへの取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

３　まちの移り変わりと歴史・文化資源の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（１）広域的なまちの移り変わり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

（２）東海道周辺のまちの移り変わり　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

（３）歴史・文化資源の立地　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

４　地域における取組　・・・6

５　主な計画上の位置づけ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

第２章　川崎駅周辺のまちづくりの課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

１　川崎駅周辺の広域的なまちづくりの課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

２　東海道周辺のまちづくりの課題　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

第３章　基本的な考え方　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

１　理念と目標　・・・9

（１）理念　・・・9

（２）目標　・・・9

（３）市民協働の視点　・・・9

２　基本方針　・・10

（１）賑わいと歴史文化の融合による新たな川崎の魅力の創造と発信　・・・・・・・10

（２）回遊しながら長く滞在できるまちの実現　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

（３）川崎駅周辺の都市景観の形成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

（４）地域の文化や歴史を伝える人材の育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

（５）まちの賑わいと人々の交流を高める拠点形成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第４章　基本方針を踏まえた施策展開の方向　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

１　基本的な考え方　・・13

２　先導する事業と５つの基本方針の関係　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13

第５章　まちづくりの推進に向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

１　市民主体のまちづくりを推進する連携の仕組づくり連携の仕組づくり　・・・・・14

２　関連する計画の推進　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

資料編　・・・15

資料１　東海道を軸とした川崎駅周辺の概念図　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

資料２　検討経過　・・16

■ 第1章　策定にあたって

1　はじめに

様々な計画や事業により広域的な拠点が形成されている川崎駅周辺については、東海道などをはじめとする、ふるさとの資源となる地域の歴史・文化などの資源が豊富に存在し、これらを活用したまちづくり活動が蓄積されてきています。

また、羽田空港の国際化に伴う都市間競争への対応や、首都圏の利便性を活かしたまちとしての個性の発揮、広域からの集客力の向上と賑わいのあるまちづくりなど、新たな川崎のイメージアップへの取組に対する期待が高まっています。

一方、川崎駅周辺では、地域資源を活かした様々な取組が市民主体で行われており、平成 8（1996）年度の川崎区づくり白書の策定をはじめ、平成 13（2001）年には東海道宿制四百周年を記念した「大川崎宿まつり」が盛大に開催されました。

また、平成 14（2002）年、東海道川崎宿を地域活性化の種としての活用を検討するため、市民組織の「東海道川崎宿を活かした地域活性化方策検討委員会」が立ち上がり、翌年にまとめた「東海道川崎宿２０２３いきいき作戦」を実現するため「東海道川崎宿２０２３」が組織され、今日まで活動を続けています。

これらの取組では、長期間に渡って継続的に行われることで、各主体の連携による新たな取組が行われるようになっています。

こうしたまちづくりや地域の取組の状況から、東海道などの地域に身近な文化資源に、市民が愛着と誇りを持ち、その地域資源を活用したまちづくりを、市民と協働で展開することにより、まちの賑わいを創出し、地域交流・コミュニティ活動を盛んにし、地域の活性化を図ることが求められています。

「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方」は、このような理解のもとに、東海道などを活用した地域への愛着と誇りを育むまちづくりの基本的な考え方を定めたものです。

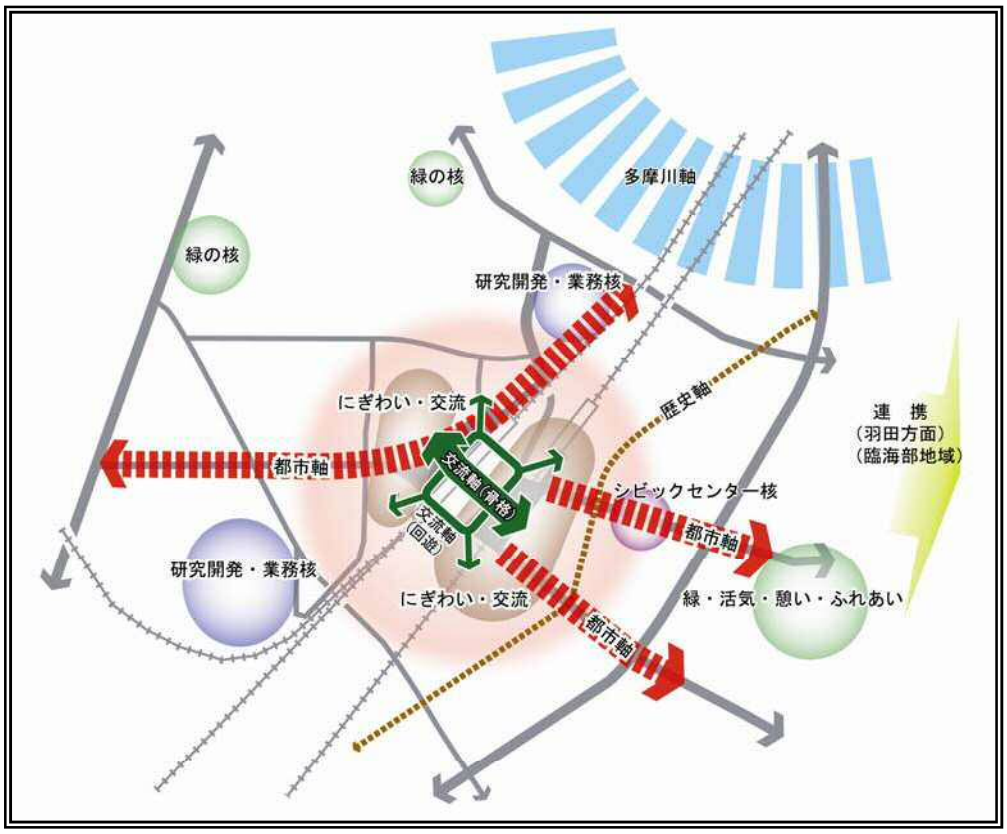
今後は、これまでの市民協働による課題解決に向けた取組を引き続き推進し、地域交流・コミュニティの育成と継承に向けて、市民と行政が連携しながらまちづくりに取り組んでまいりますので、市民の方々や関係者の方々の御理解と御協力をお願いいたします。

【写真】上空から見た川崎駅周辺地区（川崎市撮影）

2　川崎駅周辺のまちづくりの背景

（１）川崎駅周辺の広域的なまちづくりの進展

これまで川崎駅周辺では、様々な計画・事業による広域拠点の形成が行われてきました。一方、東海道などをはじめとする、ふるさとの資源を大切にしたまちづくりが市民主体で進められてきました。地域の歴史･文化等を活用したまちづくりは、川崎駅周辺で着実に蓄積されつつあります。



【図】
川崎駅周辺地区の
まちづくり概念図
※「川崎駅周辺地区のまちづくり」から抜粋

（２）新たな川崎のイメージアップへの取組

新たな川崎のイメージアップへの取組については、羽田空港の国際化に伴う都市間競争への対応として、首都圏の利便性を活かした川崎市の個性を発揮しながら、国際的・広域的な業務機能の集積・強化を図り、広域からの集客力の向上をめざすことが重要となります。このような広域的な視点を踏まえ、賑わいのあるまちとしての取組を進めることが求められています。

【写真】
羽田空港国際ターミナル付近上空から
川崎駅周辺地区を望む（川崎市撮影）

3 まちの移り変わりと歴史・文化資源の状況

（1）広域的なまちの移り変わり

明治 14（1881）年

明治 14 年測量（一部 15 年測量）
二万分一迅速測図

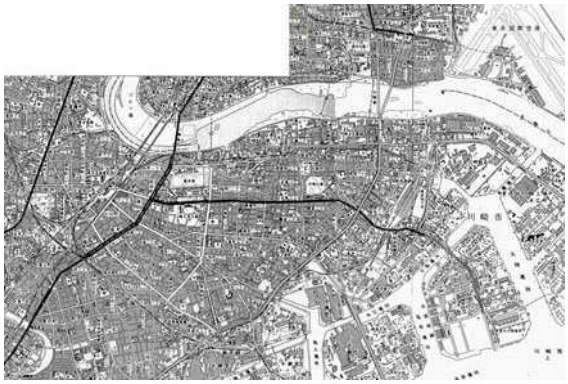
臨海部の遠浅の海は干潮時には広い潟をなし、多摩川河口には洲が発達していました。塩浜では製塩業、大師河原では海苔養殖や貝類養殖、淡水魚養殖等が行われていました。三角洲低地の微高地には集落が立地し、広い水田が開拓されてきました。明治５年に東海道線、新橋～川崎～横浜（現：桜木町）間が開業し、川崎停車場が設置されました。

大正 11 年（1922）年

大正６年測量（一部 11 年測量又は修正）
1：25000 地形図

明治 32 年には電気鉄道が開通し、明治 34～38 年には京浜電鉄が全通しました。川崎駅周辺の安価な低湿地への工場の立地が相次ぐと共に、長十郎梨、伝十郎桃等の発見によって梨園や桃園の拡大が急速に進みました。臨海地域では、明治 41 年、鶴見川口－田島村大島地先の浅海埋立計画が立案されました。

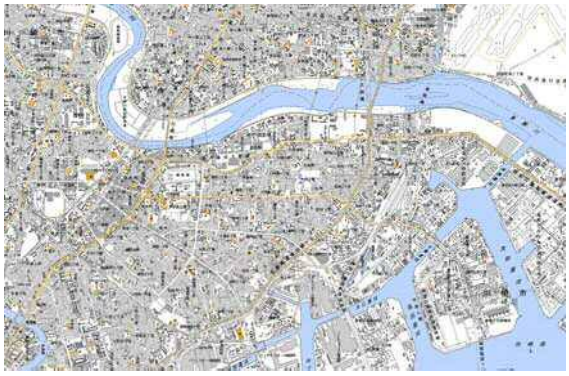
昭和 45（1970）年



昭和 45 年修正（一部 43 年修正）
1：25000 地形図

空襲により市街地、工業地の大半が壊滅的な被害を受けましたが、戦後の復興計画により、川崎駅から臨海部方面への道路や中心部の商店街、公園等が整備され、大企業の復興と共に中小工場群が各所に成立しました。浅海埋立と京浜運河、川崎港の建設も完成し、臨海部には大規模な製鉄所や精油所、石油化学コンビナートが形成され、昭和 27 年には、東京国際（羽田）空港が開業しました。

現在

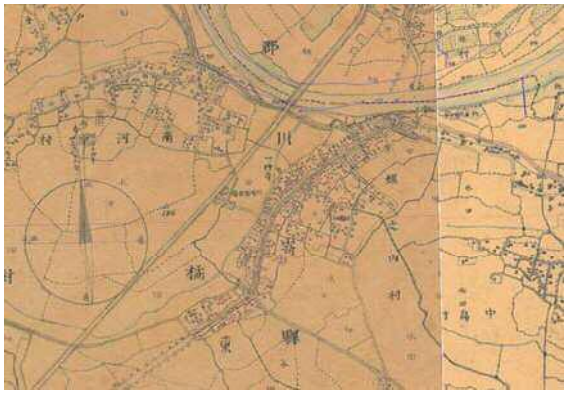


平成 21 年更新　1：25000 地形図

川崎駅周辺の開発、基盤整備等が推進され、工都から数々の都市機能が集積する洗練された広域拠点へと都市のイメージの変革が図られてきています。また、羽田空港の再拡張や国際化に併せた臨海部方面との更なる連携の強化等が進められています。

（２）東海道周辺のまちの移り変わり

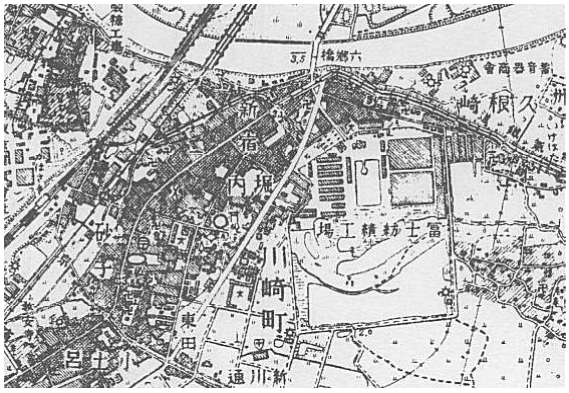
明治 14･15（1881-82）年



第一軍管地方二万分一迅速測図原図

明治５年に東海道線、新橋～川崎～横浜（現：桜木町）間が開業。東海道沿道には家々が立ち並んでいますが、周辺にはニケ領用水や農地が広がり、江戸時代の宿場町の名残を残しています。駅前には、建物の立地はほとんどありません。

大正 14（1925）年



大正 14 年発行　二万五千分一地形図

明治末期から大正初頭にかけて川崎駅周辺に、明治製糖川崎工場（明治 40 年）、東京電氣會社（後の東芝、明治 41 年）、日本蓄音器商會（後の日本コロンビア、明治 42 年）、東京製線川崎工場（明治 44 年）、富士紡績工場（大正３年）等の工場が次々と立地し、市街地が急速に拡大しました。

昭和 38（1963）年

昭和 38 年　米軍撮影航空写真

太平洋戦争の空襲の被害により多くの建物が焼失しましたが、戦災復興土地区画整理（昭和 21 年事業決定）により、川崎駅周辺地区全体が整備され、現在のまちの姿をほぼ確認することができます。東海道線及び横須賀線の停車による駅の拠点性の拡大に伴い、昭和 34 年には、神奈川県内では初の地上５階地下１階の駅ビルも完成しました。

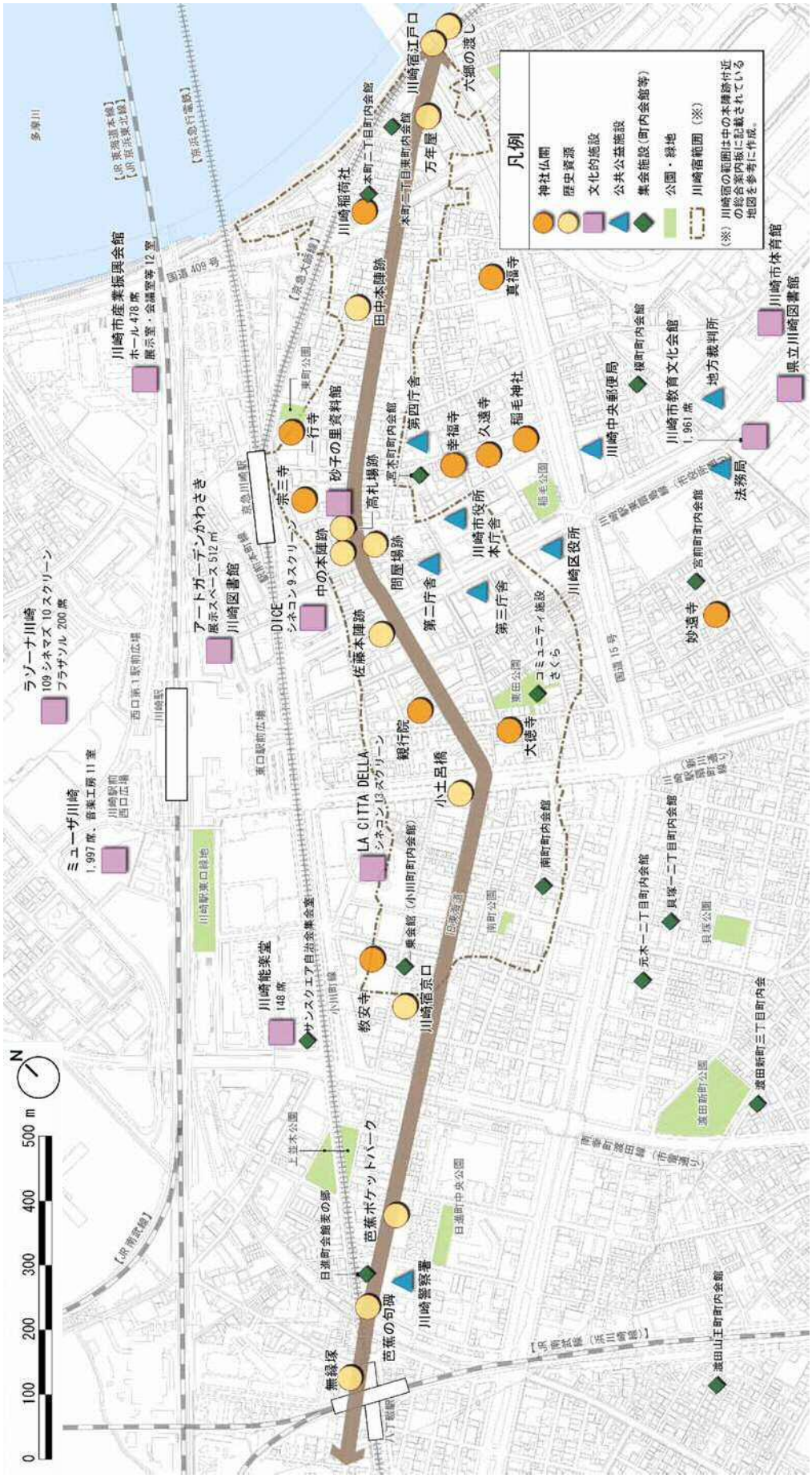
現在

平成 22 年１月　川崎市撮影航空写真

1980 年代からの東口及び西口での都市デザインを通じて広域拠点の形成が進められ、大規模商業施設や文化施設の集積が進みました。現在は、駅東西の回遊性の向上を目指す取組や東口駅前広場の再編が進められています。

（３）歴史・文化資源の立地

●東海道周辺には、神社仏閣が多く立地し、東海道沿いには歴史的施設の名残を示す碑等が数多く設置されています。
●問屋場は現在の役所に相当する場所であり、その場所はかつての川崎宿の宿場の中心として、現在は東海道・川崎宿の総合案内板が設置されています。
●川崎駅周辺には、古典芸能の発表や鑑賞ができる川崎能楽堂（148 席）、音楽ホールを持つミューザ川崎（1,997 席）、様々な映画を楽しむことができる LA CITTA DELLA（13 スクリーン）などの大規模な文化的施設が立地しています。



4　地域における取組

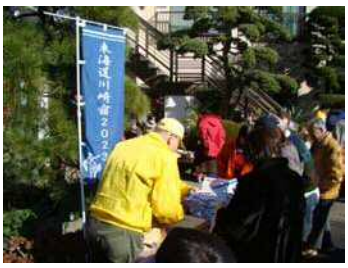
これまで川崎駅周辺では、地域資源を活かした様々な取組が、市民主体で行われてきました。これらの取組は、長期間に渡って継続的に行われることで、各主体の連携による新たな取組が行われるようになっています。

◎川崎区における東海道関連のまちづくりの実践

区づくり白書の策定を始めとして、大川崎宿まつり、「東海道川崎宿２０２３いきいき作戦」の策定等の市民主体の取組を実施

■平成　８年度　「川崎区づくり白書」の策定
■平成１３年度　「大川崎宿まつり」の実施
■平成１４年度　「東海道川崎宿 2023 いきいき作戦」の策定
（東海道川崎宿を活かした地域活性化方策検討委員会）
（ⅰ）拠点づくり：「（仮称）川崎宿おもしろ館」提案　他
（ⅱ）まちなみ整備：案内板　他
（ⅲ）文化の創出：寄席、展示、コンサート　他
（ⅳ）情報発信：HP、すごろく　他
■平成１５年度（仮称）東海道おもしろ館の整備に関する要望書
■平成１７年度　東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドライン
■平成２１年３月 東海道川崎宿歴史資料館設立陳情書（7,957 名署名）
■平成 22 年度　地域資源を活かした回遊性・にぎわい
・市民提案書「東海道川崎宿２０２３いきいき作戦」見直し
・シャッター浮世絵整備、閻魔寺寄席、ガイドツアー　など

芭蕉の句碑の保存


活動団体のイベント

◎祭り等の地域の取組など

●平成１３年度　大川崎宿まつり
●平成１５年度　川崎宿今昔まつり
●稲荷講祭

◎音楽のまちの取組

●地域とふれあう音楽振興事業
●協働推進事業
　■いつでも誰でもコンサート

◎映像のまちの取組

●映像のまち・かわさき推進事業等

◎ホームタウンスポーツの取組

●アメリカンフットボールを活用した活力あるまちづくり推進事業等

◎タウンマネージメント等の取組

●中心市街地環境美化事業　クリーンキャンペーン
●商店街環境整備事業　特徴ある通り空間の整備
●街並み景観形成事業
　■効果的な街なか演出（モニュメント等）
●東口エリアイベント事業
　■既存イベントの強化、共同ＰＲ
●中心市街地情報発信事業
　■地元関係者のメーリングリストの整備
　内向きの情報発信、意見交換の場の整備
●バスカー（街角ミュージック）　など

◎その他のイベント

●カワサキハロウィン　●アジアンフェスタ　など

◎企業市民交流等の取組

●インタラクティブかわさきネットワーク
　■社会貢献活動に関する調査：企業市民（企業で働く人々）と生活市民の交流の場づくりや様々な連携事業を展開するため、企業側と生活市民側のそれぞれに社会貢献活動に関する調査を実施
　■かわさきの宝物バスツアー：地元の人や他の地域の方にも川崎の魅力をアピール出来るものを「かわさきの宝物」といい、川崎で暮らす人々と川崎で働く人々が協働して川崎の宝物を発掘
　■かわさき産業ミュージアム講座の実施
　川崎が世界に誇る京浜工業地帯の企業と地域の歴史をわかりやすく学習

5　主な計画上の位置づけ

川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりを進めるにあたり、関連する計画における位置付けは以下のとおりとなっています。

●新総合計画川崎再生フロンティアプラン　第２期実行計画 2008～2010（平成 17 年３月）

『基本政策　個性と魅力が輝くまちづくり』の中で『地域資源を活かしたまちづくり』を位置づけ、川崎区の区協働推進事業として、東海道川崎宿や産業文化財等の地域資源を活かした地域活性化の推進などを行っています。

●都市計画マスタープラン（平成 19 年３月）

『地域の歴史や文化に根ざした川崎らしさを大切にするとともに、さらに新しい魅力を創造し、それらがお互いに融合し合いながら変ぼうを遂げる川崎の姿を発信することにより、都市イメージの向上と、多くの人々が集うにぎわいのあるまちづくりを進め』ることを「全体構想」において掲げ、「川崎区構想」で、『旧東海道や川崎宿の史跡を活かした街なみを育みます。』と掲げています。

●川崎駅周辺総合整備計画（平成 18 年４月）

『広域的拠点形成と地域連携のまちづくり』などの駅周辺整備の基本方針に基づき、『回遊性の強化』、『周辺道路、交通環境の整備』、『自転車対策の推進』、『都市景観の形成』、『環境美化の推進』、『商業活性化の推進』など９つの基本施策を掲げています。

●川崎駅周辺のまちづくり（平成 20 年３月）

川崎駅周辺の「にぎわい・交流核」に近接し、そこから伸びる「都市軸」と交差する『歴史軸』として位置づけています。

●かわさき観光振興プラン（平成 17 年６月）

観光振興の戦略として、『東海道川崎宿のイメージアップ「東海道川崎宿 2023 いきいき作戦」の推進』及び『東海道、中原街道、大山街道、多摩の横山などの既存の観光資源の紹介とルートづくり』、『市内の歴史的文化財の保護・保全と活用』を掲げています。

●文化芸術振興計画（平成 20 年３月）

『川崎市の文化は、歴史的には東海道や大山街道などの宿場町として人々の生活や交流の中で育まれてきました。』とする経過を踏まえ、『川崎の産業文化や文化資源を活用し観光の振興を図る。』、『文化芸術を取り入れ、商店街が地域社会の核となるべく地域コミュニティ機能の回復・強化を促進し、地元での調達、買物、消費拡大に取り組み、地域商業の活性化を図る。』、『身近な自然や地域が育んできた歴史、旧街道の面影が残る街並みなど地域の個性・資産を活かしたまちづくりを進める。』という事業計画を掲げています。

●川崎駅周辺市街地活性化基本計画（平成 19 年３月）

市街地の整備改善に向けた川崎駅東口エリアの取り組みとして『憩いのための空間づくり』、商業等の活性化に向けたハード面での取り組みとして、『旧東海道の環境整備』を掲げています。

●川崎市商業振興ビジョン（平成 21 年３月）

商業振興の方向性の一つに『まちづくりと連動した商業振興』を位置づけ、『再開発にあわせた集客や回遊性の向上』、『国際化に伴う外国人客増加に対応したまちづくり』、『都市観光等の推進や交流活発化の促進』などを掲げています。また、施策の基本的視点として新たに『商業集積エリアの活性化』を位置づけ、『地域資源を活かす取組など、地域価値を高める施策を通じた魅力ある「商業集積エリア」の形成を促進する』ことを掲げています。

●川崎駅周辺地区緑化推進重点地区計画（平成15年3月）

富士見公園などの緑の拠点を含めた川崎駅周辺地区において、『緑うるおう　ホットするまち』を緑化推進のテーマに、「旧東海道を中心とした文化的資源を生かした緑のまちづくり」など５つの基本方針や緑化の計画などを掲げています。

■ 第2章 川崎駅周辺のまちづくりの課題

地域における取組やまちづくりの背景を踏まえ、川崎駅周辺地区の広域的なまちづくり及び東海道周辺のまちづくりの課題を、次の７つに整理しました。

1 川崎駅周辺の広域的なまちづくりの課題

（１）新たな川崎らしさの創造

これまでの川崎のよさ（歴史、文化、産業、科学技術など）を尊重しつつ、川崎大師、富士見公園を含めた広域的なゾーンの良好な資源を有機的に連携する総合的なプロデュースを行いながら、羽田空港の国際化に対応した様々な観光客にも受け入れられる重層的な魅力をもった新しい川崎らしさを創造していくことが必要です。

（２）回遊性の強化による滞留時間の長いまちの創出

まちぐるみの活性化に向けた取り組みや安全・安心・楽しく歩くことができる歩行空間をめざすとともに、地域情報提供の強化等によって、地域の回遊性を拡充し、現在は所々で分断されている個々の魅力的な賑わい間の連続性を創出し、滞留時間の長いまちとすることが重要です。また、京急川崎駅方面への開発の展開に合わせて、交通結節点としての京急川崎駅と東海道の連携の強化が必要です。

（３）川崎駅周辺のまちづくり課題への対応

川崎駅東口駅前広場の再編整備により広域拠点の玄関口である川崎駅が新しくなるとともに、川崎駅東口周辺地区の総合的な自転車対策が進められようとしています。このような川崎駅周辺地区のまちづくり課題の解決の取組との連携が必要です。

（４）市民協働体制を育む交流の場の創出

そこで働く人、そこに住む人が中心となって、永きに渡ってエリアマネジメントを推進するためにも、地域における連帯感を醸成し、市民協働体制を育む交流の場の創出が必要です。

2 東海道周辺のまちづくりの課題

（１）地域の歴史・文化を活かしたまちづくりの推進

東海道周辺に多数立地する歴史・文化資源に関する情報の発信、それらの資源の保存・保全、資源相互の連携強化等を通じ、地域の歴史・文化を活かした個性的なまちづくりの推進が必要です。

（２）土地の記憶を紡ぐまちなみ景観の実現

宿場町時代の歴史的景観は喪失してしまったものの、シャッターへの浮世絵整備や建築物への和風の設え等の工夫に見られるような、現代的な魅力と歴史的な魅力の双方を兼ね備えた質の高いまちなみ景観を形成し、東海道・川崎宿という土地の記憶を後世に継承していくことが必要です。

（３）東海道・川崎宿の誇りや心意気の継承

震災や戦災、劇的なまちの発展の中で多くの歴史的な資源が失われてしまっているからこそ、受け継がれてきた東海道・川崎宿の誇りや心意気、川崎ゆかりの人物等を次世代へと継承する仕組みづくり・人材育成等が望まれます。

■　第3章　基本的な考え方

1　理念と目標

地域における取組やまちづくりの背景、東海道周辺の課題などを踏まえ、まちづくりの理念とまちづくりの目標を、次のとおりとします。この目標を達成するため、市民協働の視点のもとで、５つのまちづくりの基本方針を定めます。

（１）理念

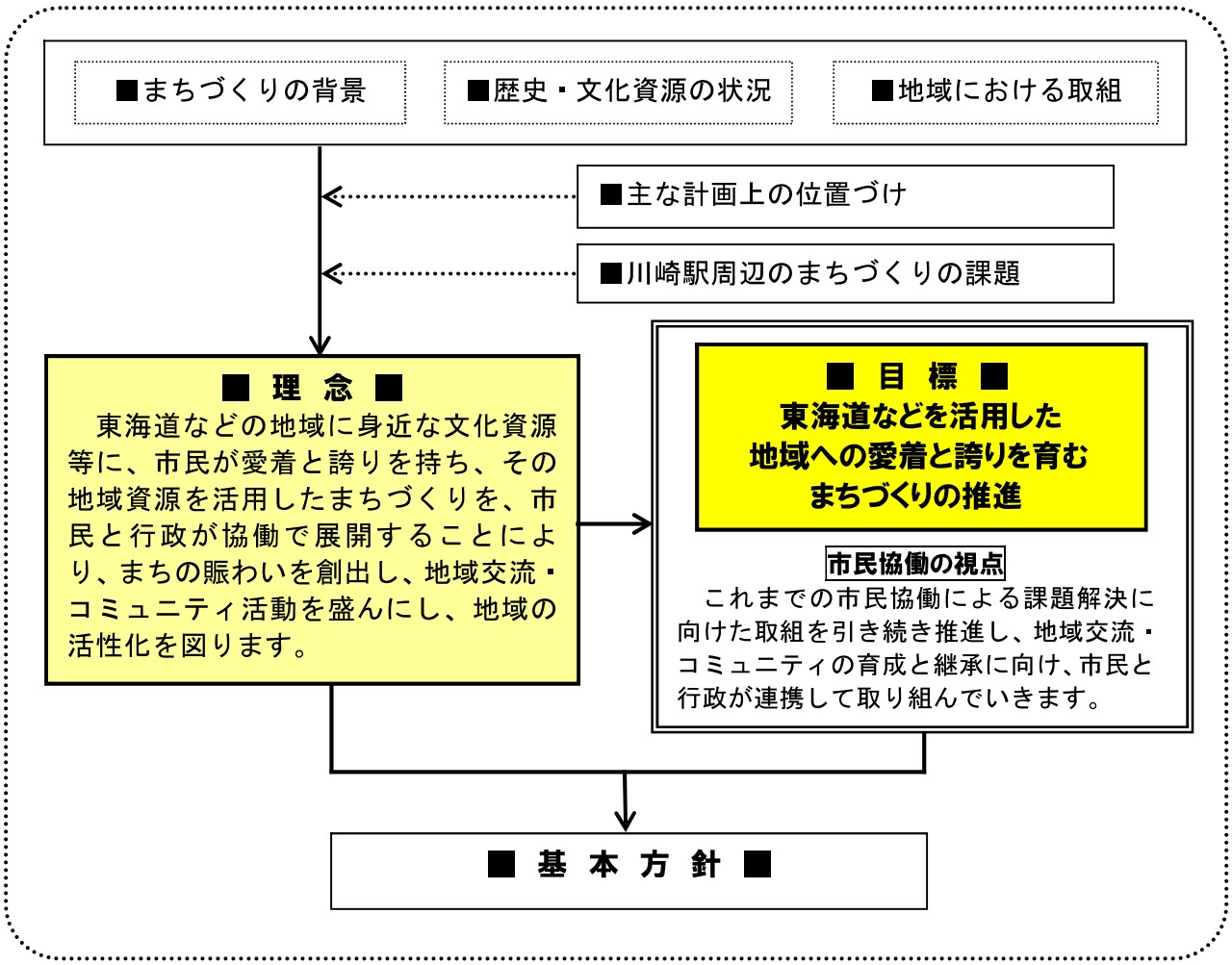
東海道などの地域に身近な文化資源等に、市民が愛着と誇りを持ち、その地域資源を活用したまちづくりを、市民と行政が協働で展開することにより、まちの賑わいを創出し、地域交流・コミュニティ活動を盛んにし、地域の活性化を図ります。

（２）目標

東海道などを活用した地域への愛着と誇りを育むまちづくりの推進。

（３）市民協働の視点

これまでの市民協働による課題解決に向けた取組を引き続き推進し、地域交流・コミュニティの育成と継承に向け、市民と行政が連携して取り組んでいきます。



2 基本方針

（１）賑わいと歴史文化の融合による新たな川崎の魅力の創造と発信

【市民】文化資源等の活用と民間主導の観光事業推進
【行政】多様な広報戦略の展開
【協働】多様な主体による総合的な連携、地域資源の情報受発信・展示

川崎市の玄関口にふさわしい活力と魅力にあふれた広域拠点の形成を推進し、賑わいあるまちづくりを進めるとともに、駅周辺の古くから形成されている商店街やこれまで築いてきた川崎固有の文化、さらに東海道を中心とした歴史資源などを融合させ、都市拠点としての活力のさらなる向上をめざします。

川崎の文化資源等の活用にあたっては、「音楽のまち・かわさき」や「映像のまち・かわさき」の取組、アメリカンフットボールの魅力を活かした地域イベント等の取組、さらに民間主導による観光関連事業の取組や、川崎の強みである先端技術施設、企業博物館、産業遺産等を活用した産業観光の取組等を互いに連携させ、川崎の個性と魅力が輝くまちづくりに向けた取組を進めます。

これらの新たな川崎の魅力の創造と合わせ、外国語等の国際的な対応を含めたホームページやパンフレット等の多様な広報戦略を展開し、市内外、更には世界を視野に入れた戦略的な情報発信に取り組むとともに、観光推進活動を効果的に実施し、市内への集客を推進します。

また、多様な主体による取組を総合的に連携させるとともに、様々な視点から蓄積された地域資源の情報を受発信・展示する取組を進めます。

＜新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」 関連する主な事業＞
◎地域資源を活かしたまちづくり事業
◎かわさき産業ミュージアム推進事業
◎音楽のまち推進事業
◎映像のまち・かわさき推進事業
◎アメリカンフットボールを活用した活力あるまちづくり推進事業
◎産業観光推進事業
◎観光振興事業
◎シティセールス推進事業

【写真】ミューザ川崎

（２）回遊しながら長く滞在できるまちの実現

【市民】まちなかのサインや多様な主体の連携による来街者の誘導、環境美化
【行政】駅東西地区の回遊性強化、交通結節点整備
【協働】広域的に滞留するための各主体の連携・協働事業・情報発信

駅周辺に集積する商業・業務機能、文化・交流機能と富士見公園、さらに川崎大師や羽田空港などを視野に入れ、川崎駅周辺を広域的な一つのゾーンとして捉え、東海道を幹に、そこから派生する枝として様々なつながりをつくりながら、回遊性の高いまちをめざします。

回遊性の強化にあたっては、駅東西の回遊性・利便性の一層の向上に向けた取組や、川崎駅東口周辺地区の総合的な自転車対策により、安全で快適な歩行空間の確保等を行うとともに、立地特性に優れた京急川崎駅周辺地区において、民間活力による国際化に対応した都市機能の再編整備の適切な誘導・支援を行い、新たな玄関口として魅力あるまちづくりを進めます。

また、地元主体のカワサキハロウィンや、かわさきアジアンフェスタにおける商店街と大型店の連携等、川崎駅周辺の活性化を図るための都市ブランド力の向上等を進めるとともに、かわさきタウンマネージメント機関（かわさきＴＭＯ）による活性化の取組と協働しながら、各主体が連携して来街者を誘導し、広域的に滞留できるような回遊性の強化をめざします。

さらに、地域イベントと連携したマップ等による情報発信や、既に数多く設置している案内板をはじめとする東海道川崎宿等の地域資源を活かしたまちなかのサイン計画、さらには地域

による環境美化の取組を進め、来街者が快適に長く滞在できるようなまちをめざします。

＜新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」 関連する主な事業＞

◎川崎駅周辺総合整備事業
◎JR川崎駅北口自由通路等整備事業
◎京急川崎駅周辺地区整備事業
◎放置自転車対策事業
◎富士見周辺地区整備の推進及び調整
◎商業ネットワーク事業
◎まちづくり連動事業
◎地域資源を活かしたまちづくり事業

【写真】駅周辺パース

【写真】まちなかのサイン計画

（３）川崎駅周辺の都市景観の形成

【市民】歴史と調和した和の心が感じられる魅力的なまちなみづくり
【行政】地域発意による景観の取組への支援・誘導
【協働】地域における取組の調整

川崎駅周辺の都市景観の形成として、東口駅前広場機能の見直しを契機とする公共空間の再編整備事業、多摩川のスーパー堤防整備事業、川崎駅周辺の景観計画特定地区における建築物等の色彩やデザインの誘導等を図り、広域拠点にふさわしい都市景観づくりをめざします。

また、東海道においては、かつての川崎宿としての歴史と調和した和の心が感じられる景観形成をめざし、地域で暮らす人々が主体となってまちをつくりあげるという共通認識のもと、これまでの地域主体の取組等を継続支援しつつ、沿道においては地域資源にも配慮したまちづくりをめざします。

＜新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」 関連する主な事業＞

◎地域資源を活かしたまちづくり推進事業
◎都市景観形成推進事業
◎川崎駅周辺総合整備事業

【図】
東海道川崎宿まちなみまちづくりガイドライン

【写真】
まちなみ景観の創造に向けた地域発意の取組

（４）地域の文化や歴史を伝える人材の育成

【市民】歴史・文化・観光に関する活動の推進、組織や地域リーダーの育成
【行政】歴史・文化・観光をきっかけとする人材育成の場づくり、地域交流支援
【協働】交流・エリアマネジメントの実践

連帯感に支えられ安心感とやすらぎのある地域社会を実現し、東海道を始めとする川崎の歴史・文化を伝える様々な活動を促進するため、歴史・文化・観光等の活動団体・組織の活性化支援や地域リーダーの育成支援を行っていきます。

特に、川崎駅周辺の魅力あるまちづくりを進めるため、地域で主体的に活動する組織等の人材育成や活動支援を行い、エリアマネジメントの強化を図っていきます。

また育成支援にあたっては、地域における協働のまちづくりを推進し、地域コミュニティの核となる町内会等の活性化に向けた支援と合わせて取り組むことで、歴史・文化・観光をきっかけとした地域交流支援を進めるとともに、外国語ボランティアガイドの育成・活用など、国際化に対応したきめ細かい対応を行っていきます。

一方、企業の地域社会貢献活動の機運を高め、生活市民と企業市民の交流の場づくりと協働による魅力あるまちづくりを進めるとともに、産業文化財を保存し、地域資源として活用を図る取組や、産業観光の取組等を通じ、川崎固有の文化を伝える人材を育成していきます。

＜新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」　関連する主な事業＞
◎まちづくり連動事業
◎地域振興事業
◎地域資源を活かしたまちづくり推進事業
◎観光振興事業
◎音楽のまちづくり推進事業
◎映像のまち･かわさき推進事業
◎企業市民交流事業
◎かわさき産業ミュージアム推進事業
◎産業観光推進事業

【写真】地域のイベント交流

（５）まちの賑わいと人々の交流を高める拠点形成

【市民】楽しみ、味わうことのできる交流機会の創出、地域固有の催しなどの展開
【行政】地域交流と情報受発信の場づくり
【協働】多様な主体の連携と情報発信、交流の場の運営

まちの賑わいと人々の交流を高めるため、様々な都市機能が集積する都心にあって「楽しみ」、「味わう」ことができる文化・交流拠点の形成を図るとともに、東海道川崎宿や関連する歴史・文化等の地域資源を活用したイベントの実施や情報発信などの取組により、まちの活気を高める交流機会の創出を図ります。

また、交流拠点の形成にあたっては、地域固有の祭りや催しなど、地域や各団体の連帯感につながるような工夫を行い、自発的に地域活性化を図る地域交流と情報受発信の場づくりをめざしていきます。

このような文化・交流拠点の形成にあたっては、地域にある身近な歴史・文化資源に愛着と誇りを持ち、まちの賑やかさや地域の特色ある文化を通じてその魅力をあらためて認識し、さらに地域間で交流を深めるため、東海道を活用したまちづくり文化・交流拠点施設の整備を進めるとともに、地域と連携した運営を検討していきます。

＜新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」 関連する主な事業＞
◎東海道を活用したまちづくり推進事業　　◎地域資源を活かしたまちづくり推進事業

■　第4章　基本方針を踏まえた施策展開の方向

1　基本的な考え方

（１）施策展開の方向性

基本方針を踏まえた施策展開に向けて、これまでの市民協働による取組を引き続き推進しながら、地域交流とコミュニティ活動の活性化を図り、市民が主導して事業展開できるよう段階的に事業実施していくことをめざします。

そこで、５つの基本方針に基づき、まちづくりを先導するために、以下の２つの事業を実施します。

（２）先導する事業の概要

①川崎の魅力創造発信事業

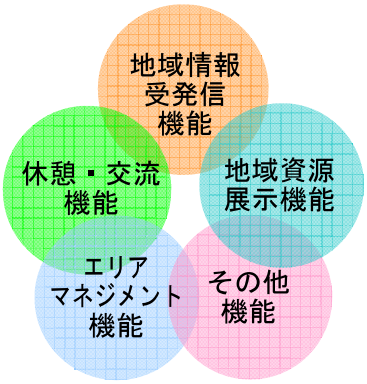
音楽や映像、アメリカンフットボール、民間主導による観光関連事業の取組や産業観光等の川崎の個性と魅力になっている取組を総合的に連携させながら推進し、新たな魅力として創造した上で戦略的に情報発信していく取組を進めます。情報発信にあたっては、外国語等の国際的な対応を含めた広報戦略を展開していきます。

②文化･交流拠点の整備事業

東海道などを活用した地域への愛着と誇りを育むまちづくりの推進に向けて、まちの賑わいと人々の交流を高めるための先導的な事業として、文化・交流拠点の整備を進めます。

整備にあたっては、川崎の魅力の創造・受発信や、地域活動・地域交流の拠点としての役割を果たす機能を導入するとともに、地域と連携した運営を検討していきます。

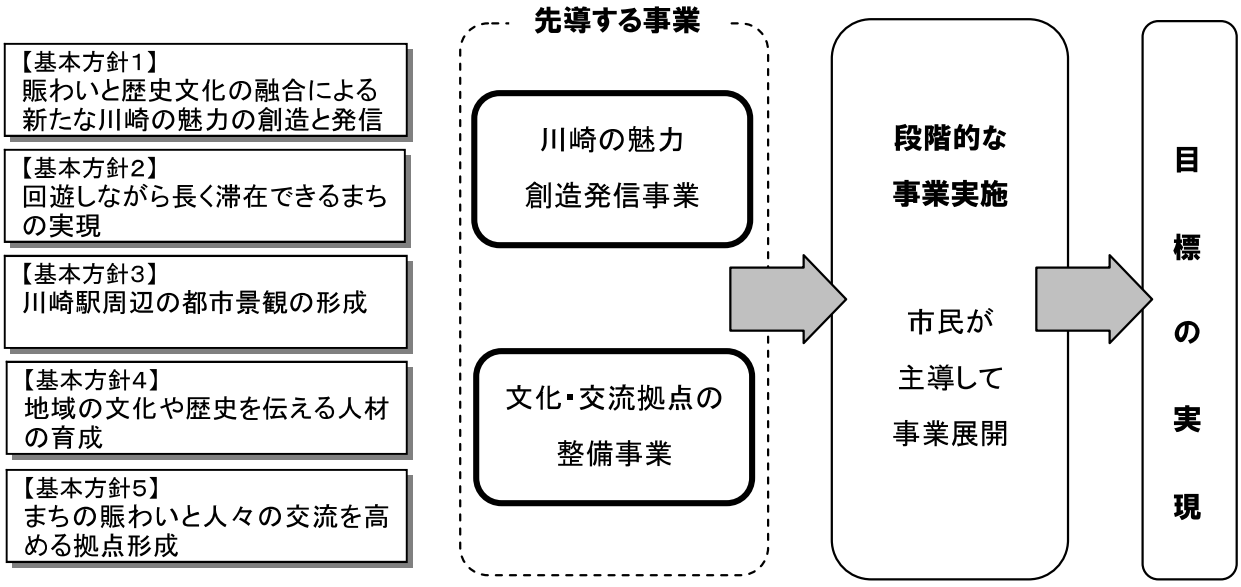
また、東海道沿道において文化・交流の連携を図りながら、まちの回遊性を広域的かつ効果的に向上させる結節点へ立地する計画とします。



文化・交流拠点の機能イメージ

2　先導する事業と5つの基本方針の関係

５つの基本方針を実現するため、先導する２つの事業を実施し、その効果を検証しながら、様々な事業に波及させ、段階的に基本方針を実現することで目標実現につなげていきます。



第5章　まちづくりの推進に向けて

1　市民主体のまちづくりを推進する連携の仕組づくり

地域の魅力や個性を活かしたまちづくりの推進に向けて、これまで川崎区を中心に行ってきた、東海道を活かした地域活性化の取組や、ＮＰＯ法人による歴史ガイドの活動など、地域の団体をはじめとする多様な主体が自ら課題を発見し、その解決に取り組んでいくことが、今後とも重要となります。さらに、市民に身近な区役所を中心に、市民のニーズを把握しながら、郷土への愛着心の醸成や地域課題の解決に向け、市民と行政による協働した取組を推進していくことが求められています。

また、川崎駅周辺の魅力あるまちづくりを実践する地域の団体が行う街角ミュージック（バスカー）などの活動支援や、市民文化大使などの活動により、音楽のまち、映像のまち、ホームタウンスポーツをはじめとする本市の魅力をアピールし、タウンマネージメント事業やイメージアップの推進などの賑わい創出の取組を有機的に連携していくことが重要となります。

そのため、先導的な事業である「まちづくり文化・交流拠点」の整備を契機に、地域交流と情報受発信の場を有効に活用し、地域団体、かわさきタウンマネージメント機関、川崎市観光協会連合会、川崎市文化財団、行政など、様々な主体相互の情報共有を図り、相互に連携する仕組づくりを通じて総合的に市民主体のまちづくりを進めていきます。

2　関連する計画の推進

川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりを推進するため、川崎駅周辺総合整備計画、かわさき観光振興プラン、川崎市文化芸術振興計画、川崎駅周辺市街地活性化基本計画、川崎市商業振興ビジョンをはじめとする計画のさらなる推進を図ります。

また、川崎市の玄関口である川崎駅周辺地区については、今後も羽田空港再拡張・国際化に対応した都市機能の適切な誘導や、広域的な集客能力などを備えた活力と魅力にあふれた広域拠点の形成をさらに推進していきます。

資料1　東海道を軸とした川崎駅周辺の概念図

■川崎駅周辺の都市構造

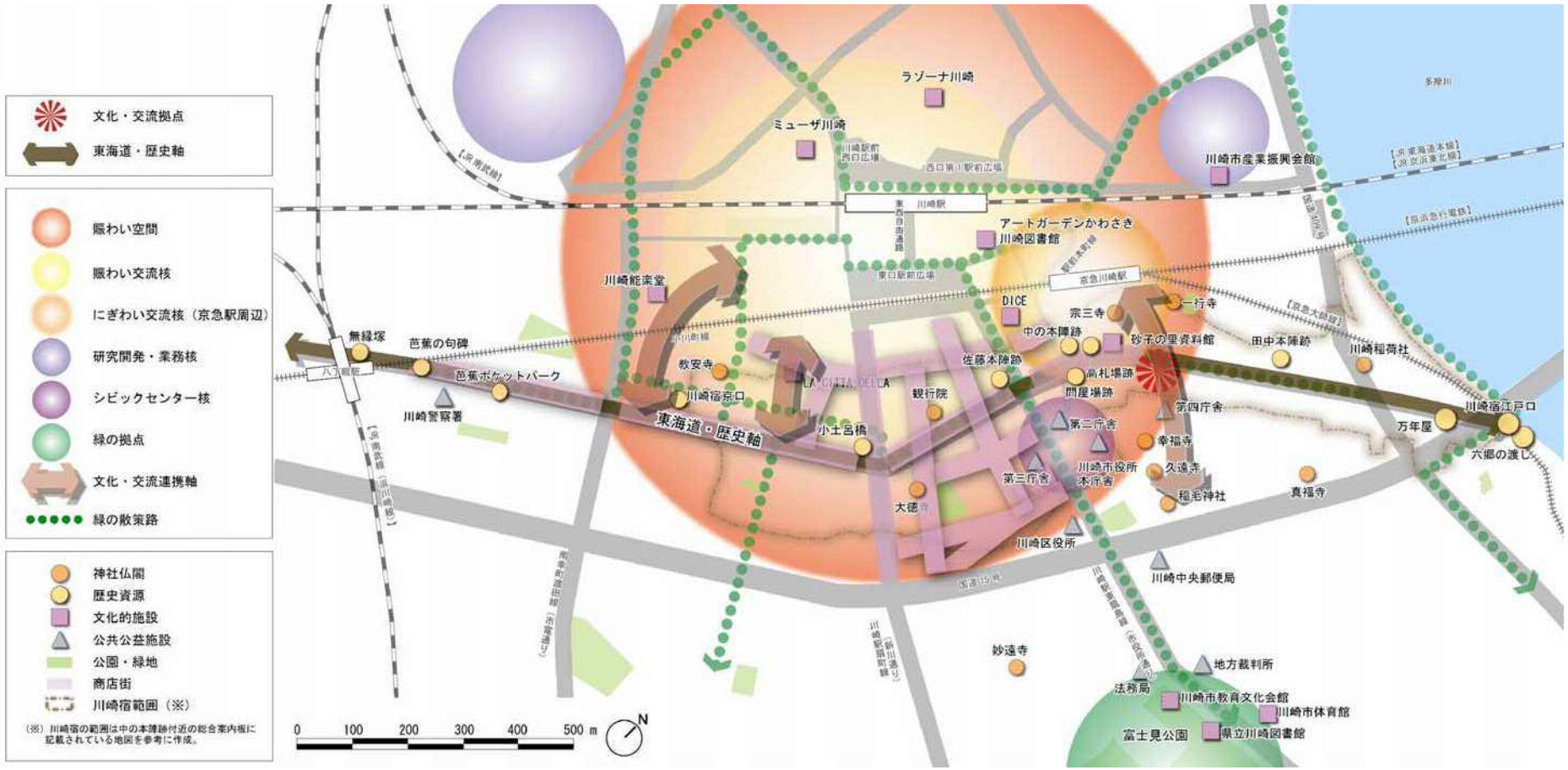
川崎駅周辺の都市構造は、駅周辺に高度な商業・業務機能が集積し、臨海部方面に放射状に街なみが構成され、それに直行して、街なみ景観を形成する「東海道・歴史軸」が形成されています。また駅前広場の再編整備により、東西の回遊性や利便性が、より向上していく状況にあります。

■賑わいと歴史文化の融合による新たな川崎の魅力の創造と発信

川崎駅前から国道 15 号付近までの大きな賑わい空間の中に、利便性の高い JR 川崎駅と京急川崎駅を中心とする二つの大きな「賑わい交流核」が形成されていると捉えることができます。そこで、多様な主体による総合的な連携のもと、これらの賑わい交流核の活力を、「文化・交流連携軸」などによって地域の歴史や文化と融合させることにより、新たな川崎の魅力を創造し、より効果的に発信させていくことをめざします。

■回遊しながら長く滞留できるまちの実現

駅前空間の歩行者ネットワークや、回遊空間となっている商店街に加え、多摩川や富士見公園等へ広域的に広がっていく「緑の散策路」や、文化資源や歴史資源が点在するエリアにおける「文化・交流連携軸」などを含めて、地域イベントなどを総合的にネットワークし、各主体が連携しながら回遊性のあるまちづくりを進めていくことにより、多くの人を誘い、地域全体で滞留できる街をめざします。



資料2　検討経過

1　川崎駅周辺地域文化資源活用まちづくり懇談会

東海道などの川崎駅周辺における地域の文化資源を活用したまちづくりを川崎駅周辺整備や地域コミュニティと連携を図りながら推進するためには、地域のまちづくり活動の主体となる地域や団体等の考え方が大変重要です。「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方」の策定にあたっては、地域、文化、商業、観光及びまちづくり活動団体等のご意見をお聞きするために、団体の代表の方にお集まりいただき、「川崎駅周辺地域文化資源活用まちづくり懇談会」を次のとおり３回開催しました。

	開催日	内容
第１回	平成２２年 ８月２４日	情報共有・課題の整理・意見交換
第２回	平成２２年 ９月１７日	まちづくりの目標・展開・方針等について意見交換
第３回	平成２２年 １０月４日	まちづくりの考え方素案について意見交換

まちづくり懇談会　メンバー（敬称略）

氏　名	団　体
市川　緋佐麿	東海道川崎宿歴史資料館設立推進委員会（まちづくり活動）
大村　輝夫	日進町町内会（地域）
金岩　勇夫	東海道川崎宿2023（まちづくり活動）
斎藤　文夫	川崎市観光協会連合会（観光）
酒井　靖恵	川崎区文化協会（文化）
杉浦　信雄	砂子一丁目町内会（地域）
寺尾　嘉剛	財団法人川崎市文化財団（文化）
武藤　聰宏	川崎砂子会協同組合（商業）
平川　靖二	本町一丁目町内会（地域）
吉野　智佐雄	NPO 法人かわさき歴史ガイド協会（まちづくり活動）

2　パブリックコメントの概要

「川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方」の策定にあたっては、広く市民の皆様から御意見をいただき、御意見を踏まえたものとするため、平成２２年１１月１９日から平成２２年１２月２０日までの間、パブリックコメントを実施しました。

いただいた御意見については、その内容とそれに対する市の考え方を平成２３年２月２１日に公表しました。

川崎駅周辺地域における文化資源等を活用したまちづくりの考え方
平成２３年２月
川　崎　市
（お　問　合　せ　先）
総合企画局公園緑地まちづくり調整室
電話：０４４－２００－２３４７
FAX：０４４－２００－３５４０